

第二回 2017 ふくい里フォーラム 概要報告

里山・里海湖を対象とした「実践」と「研究」に取り組むNPOをはじめとする団体や県民、県内外の研究者が、それぞれの取組みを発表し、自由に情報交換や議論をし、互いの交流を深めることを目的として、発表会と交流会からなるフォーラムを実施した。

日 時：平成29年12月9日（土）13：00～17：00

場 所：敦賀市男女共同参画センター3階・第5講習室

参加者：19名

※交流会 17：30～19：30（参加者6名）

主催：福井県里山里海湖研究所、福井県立大学

協力：越前市エコビレッジ交流センター

内 容：

○発表会

(1) 趣旨説明 石井 潤（福井県里山里海湖研究所）

(2) 話題提供「里山里海湖の自然環境の保全と利用」

- ・生態系サービスを地域社会にどう活かすか～里山再生ツールキットの開発と実践～
高橋 一秋（長野大学環境ツーリズム学部）

(3) 活動報告「いろいろな里山里海湖の実践と研究」

①福井の自然をどう伝えるのか

多田 憲市（NPO 法人農と地域のふれあいネットワーク）

②コウノトリと共生する地域づくり

恒本 明勇（水辺と生き物を守る農家と市民の会）

③ふるさとの自然を守ろう～里山警備隊～

野村 みゆき（越前市エコビレッジ交流センター）

④無住集落を夢充集落へ～里山の新しい暮らし方～

萩原 茂男（NPO 法人森林楽校・森んこ）

話題提供

高橋一秋氏（長野大学環境ツーリズム学部）には、①ツキノワグマの研究紹介、②生態系サービスというモノの見方、③里山再生ツールキットの開発と実践についてご発表いただいた。発表の前半では、人身事故などをもたらすツキノワグマが、森林において、クマ棚の創出やクマ剥ぎによる倒木を通して林内の光環境を改善し、明るい環境を好む植物の種多様性に寄与していることをご紹介いただいた。後半では、長野大学での教育と研究の成果として作成した「里山再生ツールキット」について、里山再生と持続可能な地域社会に貢献する人材育成と実践への貢献の事例についてご紹介いただいた。この「里山再生ツールキット」の取組みは、東日本大震災の被災地での海岸林再生を目指した「たねぷろじえくと」でも活用されているとのことである。高橋先生は、発表の中で、里地里山の生態系サービスのうち、かつては供給的サービスが多く利用されていたのが、近年は環境教育やレクリエーションをはじめとした文化的サービスの利用が多くなっていることを述べられた。

活動報告

多田憲市氏（NPO 法人農と地域のふれあいネットワーク）には、地域における農林水産業と消費者・地域資源との結びつきを深めながら、新しいコミュニティビジネスの創出を図ったり、福井の豊かな里地・里山・里海を再認識することの普及を目指した活動についてご紹介

介いただきたい。その内容は、ふるさと学級、ふるさとワークステイ、梨の木オーナー、梅の木オーナー、福井の「極上米」発見など多岐にわたっている。

恒本明勇氏（水辺と生き物を守る農家と市民の会）には、コウノトリをシンボルとした人も生き物も元気な里地里山を目指した、農薬や化学肥料を使用しない「コウノトリ呼び戻す農法」による稲作の取組みと、そこでの地域外の多様な人々との協働および交流についてご紹介いただいた。

野村みゆき氏（越前市エコビレッジ交流センター）には、第一回のフォーラムにおいて越前市坂口地区の地域づくりにつながる里地里山の様々な取組みをご紹介いただいた。今回の発表では、ビオトープなど水辺に侵入したアメリカザリガニの除去活動において、里山警備隊として活躍する子どもたちの活動についてご紹介いただいた。

萩原茂男氏（NPO 法人森林楽校・森んこ）には、無住化した老左近集落（おおい町名田庄地区）において、空き家の改修を行いながら、多くの人々が集い・遊び、学び・体験できる場所に整備し、新しい里山の暮らしと人々の往来と活気をつくることを目指す「OISAKO 夢充集落プロジェクト」について、ご紹介いただいた。



趣旨説明の様子



発表の様子

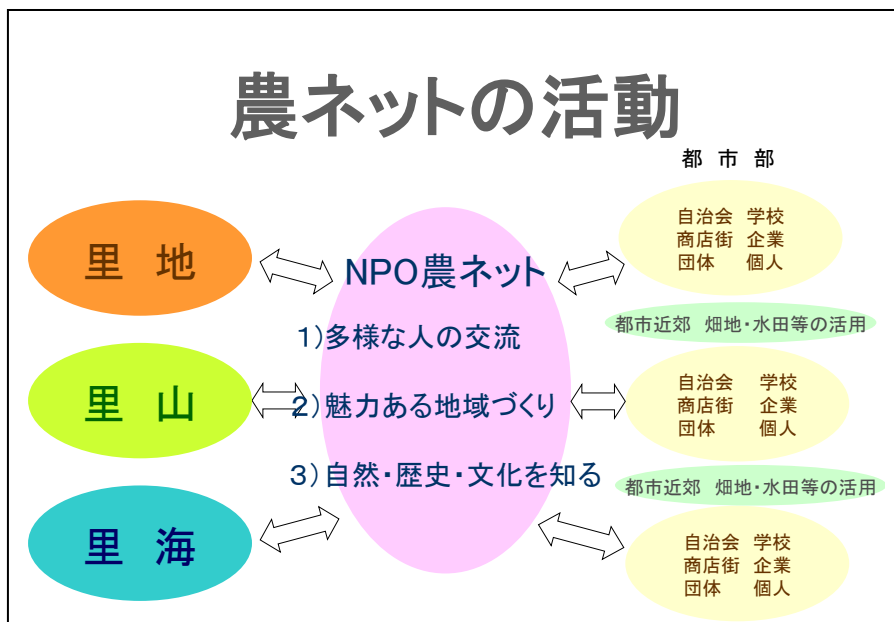


議論の様子

○交流会

今回も、和気あいあいとした雰囲気の中で、発表会での発表や意見交換の内容について、さらに活発な議論や意見交換、今後の課題について話し合いながら、交流を深めた。

～活動報告の発表スライド（抜粋）～



多田憲市氏（NPO 法人農と地域のふれあいネットワーク）は、最近では、自然から文学をたずねる活動にも力を入れていることを報告された。



恒本明勇氏(水辺と生き物を守る農家と市民の会)は、コウノトリ呼び戻す田んぼファンクラブの皆様との協働による、田植えから稲刈まで全て手作業で行う生き物に優しいお米づくりについて紹介された。この取組みは、普段縁のない農業の現場と市民とを結びつけて、学びやレクリエーション、交流など様々な役割を果たしている。

きみ さとやまけいびたいん
君も里山警備隊員になろう

期間 9月1日~10

さとやまけいびたいんにめいしょう
里山警備隊任命証

がいらいしほ さとやま まちれ
☆外来種から里山を守れ! ☆

〇〇さんを
さとやま まちれ さとやまけいびたいん
里山を守る 里山警備隊員
にんめい
に任命します

ほかくびょう
ザリガニ捕獲表

◎何匹もつけられたかな?

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱

たいへんです! 今、坂口ビオトープにおいて、アメリカザリガニの目
アメリカザリガニは要注意外来生物!!! 坂口の貴重な生きものたち
恐れがあります。元の平和なビオトープに戻すため、皆さんの方を役!

☆里山警備隊の任務とは...
・ビオトープにいるザリガニを1匹でも多くつかまえること
・つかまえたら、エコレッジ交流センター 職員のとこまで持
つてくること
・つかまえた数だけシールを渡しますので、任命書の種類数に合
ること (一番多くつかまえた人には、豪華賞品が1点!)
※網とバケツはお貸しします

お問い合わせ・お申し込みは
越前市エコレッジ交流センター
〒919-2122 越前市森山町1-20-2
TEL: 0778-28-1123 E-mail: info@oisako.jp

野村みゆき氏(越前市エコビレッジ交流センター)は、アメリカザリガニの問題解決に向けた取組みにおいて、子どもたちの成長につながる様々な工夫を紹介された。

OISAKO夢充集楽プロジェクト 事業内容

NPO法人 森林楽校・森んこが事業主体となる。

6つの事業

1. 親子体験事業
2. 熟年体験事業
3. 大学交流事業
4. 里人作業事業
5. 農作生産事業
6. 里山販売事業

里人構想「里山に新しい暮らしをつくる」

- ・ 里人を登録制にする
- ・ 登録した里人は、作業事業や企画提案などに参加でき、また地域通貨の使用ができる。
- ・ 家族や友人グループ単位 (1組4人まで) で登録する。

- ・ 集落通貨の使用
- ・ 集落通貨は作業などで支払われ、OISAKOでの体験や農作物の加工製品を購入することができる。
- ・ 楽々市やOISAKOが主催するイベントでも使用できる。

萩原茂男氏(NPO法人森林楽校・森んこ)は、里人構想という新しい里山の暮らし方を提案するプロジェクトについて、紹介された。このプロジェクトでは、“集う人々”に焦点が当てられている。

福井県里山里海湖研究所

〒919-1331 福井県三方上中郡若狭町鳥浜 122-12-1

電話 0770-45-3580

E-mail satoyama@pref.fukui.lg.jp

ホームページ <http://satoyama.pref.fukui.lg.jp/>

※作成日：2018年9月26日（水）